

45. 新型コロナウイルス感染症流行下における札幌市認可保育園の現状

楠 幸博、岡田 靖、小笠原由法

【はじめに】

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症は保育園にも大きな影響を与えている。感染予防のために様々な対策が行われているが、このウイルスの流行収束がいつになるか不明である。多くの乳幼児は感染しても症状が無いか軽く終わっている。流行下における保育園の現状についてのアンケートを行った。

【方法】

2020年10月に札幌市認可保育園管理者宛にアンケート用紙を郵送し、FAXにて回収した。

【結果】

依頼した保育園345施設のうち225施設から回答を得た（回収率65%）。合計園児数22749人、平均は101人で、合計職員数4298人、平均は28人であった。流行の前と比べて園児が休園しなければならない基準を変更した園が58%であった。理由として札幌市こども未来局の指示に従い、解熱後1日は休むとした。園児のマスク着用は園内ではしないが76%で、年齢によるが20%で、全員するが1%であった（図1）。園児の手洗いは以前より

多くしているが61%であった。園児の体温測定は以前より多くしているが59%であった。職員の休職基準は変更ありが58%であった。職員のマスク着用は常時しているが61%、状況によりで外すこととありが36%であった。園での新型コロナ感染症患者の発生はありが2%で園児の家族内感染であった。感染防御用の備品（マスク、消毒液など）の調達は流行初期の春に厳しかったが、現状は問題なしが98%であった。流行後の人員の確保困難はありが26%であった。職員がマスク着用により保育上（0歳児について）で問題ありが55%であった。とくに食事介助の時に口元が見えないと乳児は食事が進まないと報告があった。保育園全体の11%がクリアマスクや、硬い部分が園児にぶつからないように注意しながらフェースガード、マウスシールドを利用していた。流行後に以前と違って困ったことはありが69%であった。その内訳で多いものは行事が以前のように行えないが保育園全体の32%、清掃など衛生管理に時間を取られるが12%であった（図2）。

【考察】

表1に2021年1月8日までの新聞等で公表された保育園における新型コロナ感染症症例を示した。保育園においてはインフルエンザのような大規模な集団発生は報告されておらず、PCR陽性となった園児は多くが無症状か軽症であった。本アンケートを行ったのは2010年10月で、まだ本格的流行の前であったので単独例のみであった。11月末から複数のクラスターが報告され、発端者から

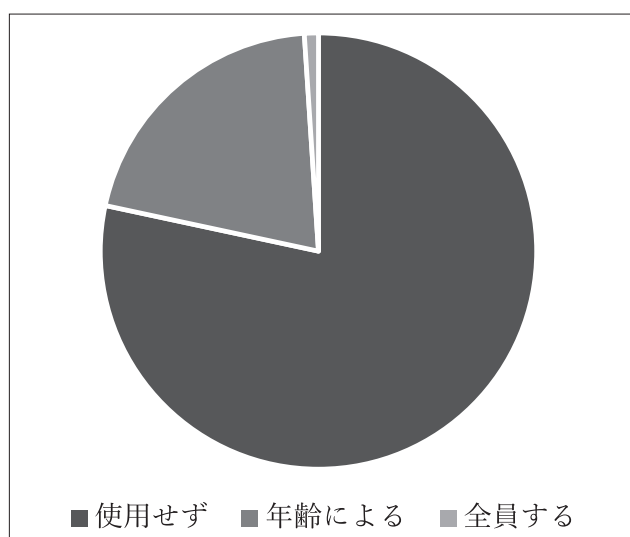


図1 園児のマスク使用（%）

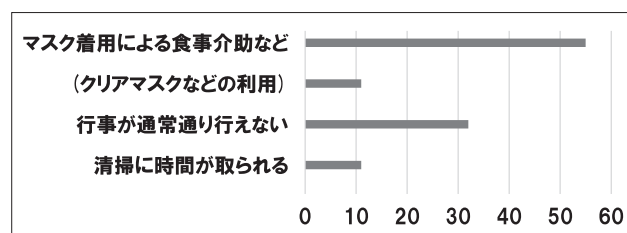


図2 新型コロナ感染症流行下の問題点（%）

表1 保育施設における新型コロナウイルス感染症陽性者発生状況

	公表日	施設区分	陽性者(人数)	措置内容	備考
1	6月1日	市立保育園	職員1	休園	
2	6月2日	市立保育園	職員1	休園	
3	8月4日	市立保育園	職員1	休園	
4	11月11日	市立保育園	園児1	休園	
5	11月27日	認可保育園	職員2・園児3	休園	集団感染の公表
6	12月5日	認可保育園	職員・園児	休園	集団感染の公表
7	12月5日	認可保育園	職員7・園児1	休園	集団感染の公表
8	12月19日	認可保育園	職員4・園児9	休園	集団感染の公表
9	12月30日	認可外保育園	職員10・園児4	休園	集団感染の公表
10	1月8日	認可保育園	職員1・園児2	休園	

どの程度広がったか詳しい情報がなく、今後の報告が待たれる。保育士がマスクをすると口元が隠れてしまうので、表情を通して子供に伝える情報量が確実に減少する。どのようなことが問題となり、どのような対策で改善したのか、どのくらいの時間で慣れたのか今後検討したい。また声を通りづらいので、危険を伝えるのが難しい状況も生まれる。屋外の散歩など適宜マスクを外すことも大切と考える。コロナ流行が長期間持続すると考えられるので、情報の共有が大切と考える。

【結語】

- 1) 保育園において、これまで大規模なクラスターは報告されていない。
- 2) 保育園において園児は園内においてマスク着用をしていなかったが、保育士はマスクをしていた。
- 3) 手洗いや体温測定回数を増やしている保育園が多かった。
- 4) 保育士のマスク着用で乳児の食事介助の困難が発生していた。
- 5) 流行後の問題点として、行事がこれまで通りできないことや清掃などが多かった。